

## シラバス参照

科目名	経済政策Ⅱ
配当年次	2年次
開講期間	後期
単位数	2
担当教員	貫 真英(ヌキ マサヒデ)
期間・曜日・時限・教室	後期 水曜日 5時限 22-404

※	
授業の目的・目標	<p>(1)授業の概要 本講義は経済成長や景気対策など、マクロな経済政策を学びます。</p> <p>(2)授業の目的 経済政策の論理を理解した上で、理論と現実をバランスよく理解することを目的とします。</p> <p>(3)習得できる力 ①知識・理解 (4)授業の到達目標 消費者や市民の目線から、自分たちの生活がどのように経済政策によって影響を受けており、また経済政策の変化にどのように対応していくべきかという視点で学生自身が考えていけるようになることを到達目標とします。</p>
準備学習等の指示	<p>事前に入門マクロ経済学を受講していると理解しやすい内容です。授業の講義動画を視聴した後、課題に関して十分に自分でも調べ、取り組んでください。</p> <p>1回の授業につき3時間の準備・ふりかえり学習を実施してください。</p>
講義スケジュール	<p>以下にあげた流れに沿って講義します(カッコ内は各テーマにおける代表的な問いです。それ以外の政策課題についても論じていきます)。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスと経済政策概説 授業の進め方、評価のされ方、経済政策とは何かを理解する</li> <li>2. 国民経済計算1 GDPとGNPの理解を通じ、(マクロ経済がどのような指標で計られているか?)を説明できる。</li> <li>3. 国民経済計算2 帰属計算と三面等価の原則の理解を通じ、(何を基準にマクロ政策を運営すべきか?その問題点は何か?)を説明できる。</li> <li>4. 成長政策の理論と課題1 成長理論と生産関数の理解を通じ、(日本の経済的停滞は政策の失敗か?)を説明できる。</li> <li>5. 成長政策の理論と課題2 成長の要因と技術進歩の理解を通じ、(成長政策として何をすべき?)を説明できる。</li> <li>6. 定化政策の基礎と財政1 安定化政策とケインズ経済学の理解を通じ、(大恐慌は政策では避けられない?)を説明できる。</li> <li>7. 定化政策の基礎と財政2 財政政策と45度線分析と乗数効果の理解を通じ、(財政赤字が膨らんだ原因は?)を説明できる。</li> <li>8. 定化政策の基礎と財政3 政府支出と減税の乗数効果の比較の理解を通じ、(同額なら政府支出増と減税どちらが良い?)を説明できる。</li> <li>9. 定化政策の基礎と金融政策1 貨幣の需要と金利の理解を通じ、(金利がつかないのになぜ貨幣で持っているの?)を説明できる。</li> <li>10. 定化政策の基礎と金融政策2 金融政策とその手段の理解を通じ、(日銀にマネーサプライは増やせない?)を説明できる。</li> <li>11. 定化政策の統合的理解1 IS-LMモデルの理解を通じ、(財市場と貨幣市場はどう関係しているの?)を説明できる。</li> <li>12. 定化政策の統合的理解2 クラウディングアウトと流動性の罫の理解を通じ、(景気回復の処方箋は?)を説明できる。</li> <li>13. 定化政策の統合的理解3 公債の中立命題の理解を通じ、(安定化政策は意味がない?)を説明できる。</li> <li>14. 安定化政策の発展問題1 為替とマンデル・フレミングモデルの理解を通じ、(円安で景気は回復する?)を説明できる。</li> <li>15. 安定化政策の発展問題2 安定化政策の現代的課題の理解を通じ、(インフレーションターゲットは有効?)を説明できる。</li> </ol>
教科書	
参考文献	<p>岩田規久男・飯田泰之『ゼミナール経済政策入門』日本経済新聞社。 その他、必要に応じて取り上げる。</p>
授業の方法	オンライン講義
成績評価方法	<p>学期中の確認問題40% その他の課題60% 評価基準 期末試験は行わず、学期中の課題、途中式や答えに至る思考の記述を重視して評価します。</p>
オフィスアワー	水曜5限、木曜5限、金曜4限

居室	23号館3階 貫研究室
ホームページ	
その他特記事項	
添付ファイル	